

令和7年度環境活動報告

部局名： 事務局

教育	
研究	
社会連携	<p>◆ 十六銀行と連携し、省エネ、環境美化やごみ減量など身近な視点からエコ活動を啓発する目的で、「考えようSDGs！エコ活動啓発ポスター・川柳コンクール」を附属小中学校において実施した。ポスター作品の募集は15回目、昨年度から川柳部門を設けた。12/17に本学にて表彰式を行い、入賞者6名を表彰した。また、全応募作品を11月に図書館で展示した。【施設】</p> <p>◆ 岐阜県博物館との連携特別企画展「鳥の卵のひみつーBird Eggsー」(9月～11月、会場：岐阜県博物館)およびサテライト展示「卵色と形のふしぎ」(4月～10月、岐阜県内の複数の商業施設にて開催)に資料を提供・協力し、生物や自然への関心を高める機会とした。【学術】</p>
キャンパスプラン	<p>◆ 環境マネジメントシステムについて継続的に取り組み、ISO 14001の維持審査を11/13,14に受審し、12/12付けで認証の更新が認められた。</p> <p>◆ 本学職員と学生による内部環境監査を9/1～3に実施し、11/11に学生内部環境監査員の修了証授与式を実施した。</p> <p>◆ 春と秋の年2回実施のクリーンキャンパスに積極的に参加し、環境美化と環境への意識向上を図った。(5/28、11/12)</p> <p>◆ メール会議やWeb会議、電子決裁(ワークフロー)の活用により、用紙の使用抑制ができた。</p> <p>◆ 「省エネアクト for ゼロカーボンキャンパス」に基づき省エネルギー・節電の取り組みを実施した。</p> <p>◆ 新規採用職員研修において、4/4に「ISO14001の取り組み」の講義を実施した。【人事】</p> <p>◆ 教職員に対して省エネルギー及び環境配慮への観点から、ゴールドenウィーク・夏季及び年末年始の休業期間に節電行動を呼びかけた。【施設】</p> <p>◆ 省エネルギーを推進するため下記工事を実施した。【施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育学部改修(2期範囲)、全学共通教育棟(D・E棟)、医学部本館・教育福利棟の一部、動物病院診療棟及び動物病院多目的棟の空調設備を高効率機器に更新し、空調負荷を低減した。 ・看護学科校舎、インキュベーション施設の一部の照明をLED化 ・看護学科校舎の屋上防水に太陽熱高反射率の材料を使用 <p>◆ キャンパスマスタープランに基づき、環境保全を図ると共に、教職員・学生・学外の利用者が安全・安心で快適に過ごせる大学環境整備として以下の工事を実施した。【施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> <構内道路・歩道修繕> 構内舗装の補修 <照明設備更新等> 看護学科校舎、インキュベーション施設の一部の照明を改修 <安全の確保> <ul style="list-style-type: none"> ・全学共通教育棟(D・E棟)の内部全面改修及び屋上防水改修 ・図書館外壁(南面・東面)改修 ・看護学科校舎の屋上防水・外壁改修 ・地域共同研究施設他の受変電設備改修 ・看護学科校舎他の昇降機設備の部品取替え <教育・研究拠点整備> 教育学部校舎改修(2期)の整備 <p>◆ 環境への取り組みの充実【施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な社会の実現に向けた取り組みが評価され、一般社団法人サステナブルキャンパス推進協議会(CAS-Net JAPAN)が実施するサステナブルキャンパス評価システム(ASCC)において、最上位のプラチナ認証を取得した。 ・東海機構として9月に発行した「環境報告書2025」が、CAS-Net JAPAN年次大会2025において、第1回サステナビリティレポートアワード「奨励賞」を受賞した。 ・岐阜大学の取り組みとして2月に環境リーフレットを発行した。

令和7年度環境活動報告

部局名： 研究推進部

教育	
研究	<p>○高等研究院の各研究センターにて、環境科学研究を引き続き計画通り実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・再生可能エネルギーを基盤とする地域分散型太陽光発電, バイオマスエネルギー, 地熱の効率利用, アップグレード化, 蓄エネルギー等の技術に関する研究 ・カーボンニュートラル化に向けたエネルギーシステム, ゼロカーボンキャンパス, カーボンリサイクルのための技術課題解決と実証に関する研究, 高性能速度制御等に関する研究 ・生態系の機能と動態に関する研究, 及び野生動物の管理に関する研究 ・温暖化に対する森林生態系の炭素・水循環機能の応答に関する研究 ・山地森林集水域における気象・生態系・生物多様性に関する研究 ・流域圏の自然環境—地域社会の持続的共生に関する研究 ・気候変動及び人口減少等の社会環境の変化が地域にもたらす影響評価手法の研究 ・気候変動影響に対する適応策の研究 ・カーボンニュートラルの推進や環境共生社会の構築に関連した環境・エネルギー分野の研究・実践, 地域協働, 人材育成に関する情報交流および連携支援(「カーボン
社会連携	<p>○地球温暖化の緩和, 気候変動への適応, 生態系サービスの持続可能な利活用に向けた研究成果のうち、農業分野における取組みについて、第1回 産学連携フォーラム2025 未来共創シリーズにて、「環境と地域社会の課題に挑む共創のアプローチ／農業分野で求められる取り組み」として講演を行った。また、東海・信州 国立大学等連携プラットフォーム(C²-FRONTS)のカーボンニュートラルタスクフォースの一員として「第3回カーボンニュートラル共創シンポジウム—ESG経営の実現と水素利用の加速・定着—」の開催に協力し、普及啓発の支援を行った。</p> <p>○岐阜県気候変動適応センター事業を岐阜県と共同実施し、岐阜における気候変動適応に資する地域ニーズに対応した以下の5つのテーマの共同研究を推進して、その成果を関係者と共有した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 気候変動による外力の増加に対する流域治水のポテンシャル検討 2) 岐阜県の水稲栽培における高温障害発生予測に関する研究 3) 気候変動のユヘへの影響と適応策の検討 4) 岐阜県の森林における炭素吸収能およびそのポテンシャルの評価に関する研究 5) 暑さ指数WBGT観測に基づく基礎的検討と熱中症リスク分析
その他運営	<p>○クリーンキャンパスに積極的に参加し、環境美化に努めるとともに環境に対する意識の向上を図った。</p> <p>○環境マネジメントシステムに係る教育訓練再確認シートを、引き続きMicrosoft Formsを用いてオンラインで回答できるようにし利便性の向上を図るとともに、同Formsにて構成員からの提案受付にも活用することで、環境意識の自己啓発に努めた。</p>

令和7年度環境活動報告

部局名: 学務部

<p>教育</p>	<p>1. カリキュラムの充実 ・教学委員会において全学の環境活動計画を周知し、環境保全の重要性を深める教育の一層の推進を図る。 →教学委員会において、全学の環境活動計画を周知し、環境保全の重要性を深める教育の一層の推進を図った。</p> <p>・全学共通教育において、環境に関する科目を実施する。 →全学共通教育において、環境に関する授業科目を32科目開講し、1,402人の受講者があった。</p> <p>また、岐阜学科学目「環境マネジメントと環境経営(令和6年度に開講。令和7年度からは地域と環境SDGsに変更)(担当教員:工学部 櫻田修先生)」が令和7年度 東海国立大機構教育グッドプラクティス機構長特別表彰を受賞した。</p> <p>2. 正課外活動における環境教育の推進 ・環境保全活動を実施している学生の課外活動団体に対し、成果に応じて支援を行う。 →昨年度、課外環境活動を実施している学生団体「岐阜大学環境サークルG-amet」が、Asia Sustainable Campus Network Conference 2024にて団体3位となったため、岐阜大学としても副学長表彰を授与した。今年度は、前年度に課外活動で優秀な成績を残した団体を対象に活動費を支援する制度により、経済的支援を行った。</p> <p>・クリーンキャンパスへの学生の積極的な参加を促す。 →全学の学生や課外活動団体へクリーンキャンパスへの参加をメールやTeamsを通じて呼び掛けた。また、課外活動団体に対して使用施設周辺のゴミ拾いをするよう、具体的に実施場所の割振を定めたほか、火ばさみ等の掃除道具の貸出やゴミの引き渡しを行う実施本部を設けたことにより、多数の学生の参加につながった。(参加者:46団体、361名)</p> <p>・岐阜ジョイント・ディグリーシンポジウム等において、環境に関するテーマで学内外の有識者から様々なアプローチを行い、環境と社会的活動に関する教育を推進する。 →12月5日に岐阜ジョイント・ディグリーシンポジウム2025で実施した「産官学金連携セッション」において、「持続可能な社会への」転換を進める企業活動」をテーマに意見交換及び発表を行った。「産官学金連携セッション」では、竹を中心とするバイオマス資源利用、及びネイチャーポジティブな農業・バイオマス利活用の2部構成により、事例紹介・パネルディスカッションを行った。メインシンポジウム及び産官学金セッションに209名の参加があった。また、12月4日にはIITG学長及びUKMの教員を招き「持続可能な未来のための研究と教育の国際連携」をテーマに、講演や意見交換を行い、49名の参加があった。</p>
<p>研究</p>	
	<p>・学内外の専門家を講師として招き、本学の学生、教員が地域の方々と共に学び、議論する場として、「グローバル化のためのSDGs勉強会」を開催する。 →グローバル推進機構は、6月に中部経済産業局及び中部経済連合会との共催で、カーボンニュートラル、バイオマス・竹資源活用をテーマにMeetUpChubu vol.64を共催で実施した。対面およびオンラインで257名が参加し、専門家や企業の取り組みを学内外に提供した。本イベントは、グローバル推進機構が継続して開催している竹資源利用勉強会としても位置付けている。また12月に開催したJDPシンポジウムの産官学金セッションをSDGs勉強会としても共同開催し、バイオマス利活用をテーマに事例紹介・パネルディスカッションの場を提供した。</p> <p>・岐阜県環境基本計画に基づいて岐阜県との連携のもと進めている「地域志向人材」と「次世代地域リーダー」育成を目指す「次世代地域リーダー育成プログラム環境リーダーコース」において、地域の環境に係る課題等の解決のためリーダーシップを発揮し活躍できる人材の育成を進める。 →次世代環境リーダーコースを5名が修了し、環境問題におけるリーダーの人材育成を推進した。</p>

<p>社会連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「次世代環境リーダー育成に係る連携授業」事業を岐阜県から受託し、環境人材・グリーン人材の育成を進める。 →地球温暖化防止のための普及・啓発、情報収集・提供等を行う岐阜県地球温暖化防止活動推進センターを現地学習先に選定し、環境イベントの出展や発表の場において、県民に対して、センターの活動内容や課題などを認識してもらうことが出来る人材育成を推進した。 ・公開講座「岐阜大学重点講座(環境)」を実施することにより、環境に関する地域住民の意識を高める。 →SDGs×知(地)の拠点をテーマ(環境にも関わる)とした公開講座を、地域連携推進本部地域協学センターが企画・運営した。 ・地域志向学研究・自治体等との共同研究等やぎふフューチャーセンターの中で環境をテーマとした研究や取組を推進し、地域の課題解決に積極的に取り組む。 →輪之内町と共催で、ぎふフューチャーセンターを開催し、輪之内中学校の生徒が町の環境対策を学び、自分たちで出来る目標を設定し、実践に向けた支援を行った。 ・包括協定自治体等との連携協力として、関係自治体と共同してテーマ設定した課題解決に取り組む。また、協定金融機関等が実施する環境事業を支援する。 →今年度初めて、環境フェアみずなみ2025にブース出展し、地域連携推進本部地域協学センターのみならず、環境社会共生体研究センターや施設統括部からの出展もあり、本学の環境活動を推進した。
<p>キャンパスプラン</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・環境美化を行い緑地保全を推進するため、年2回のクリーンキャンパスに積極的に参加した。 ・「ISO14001環境マネジメントシステム」に係る教育訓練再確認シートを定期的に記入し、自己啓発に努めた。 ・岐阜大学環境方針を常時携帯し、周知カードに各人の役割、環境保全活動を記載し、実行した。 ・昼休み時間における消灯、講義室の消灯、裏紙活用、縮小印刷など資源の再利用を促進し、省エネルギーに関する取組をより一層推進した。